

基礎知識

■ 書庫室扉とは

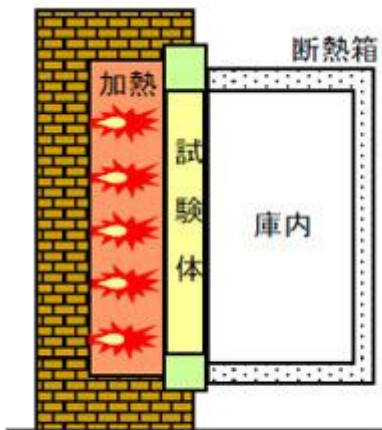
業務上、保管義務がある書類を火災から守る事を目的とした耐火性能を有する書庫室へ設置する扉が書庫室扉です。

書庫室扉は火災時に庫内が 177 度以下で保たれるように規定されております。

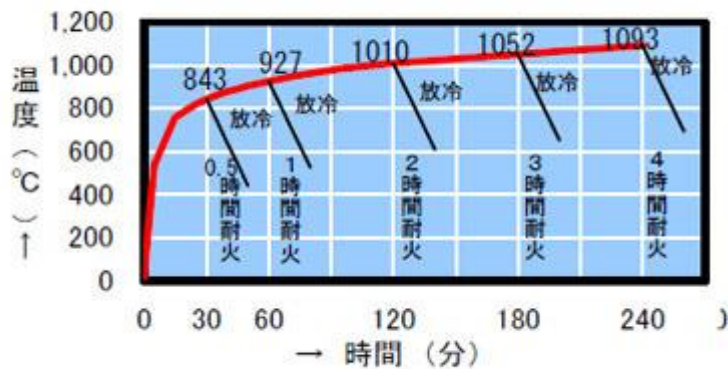
書庫室扉は防盜性よりも耐火性能を重視した扉です。

■ 耐火試験方法

日本セーフファニチュア協同組合連合会が定める耐火性能の試験方法。



加熱方法（縦断面図）



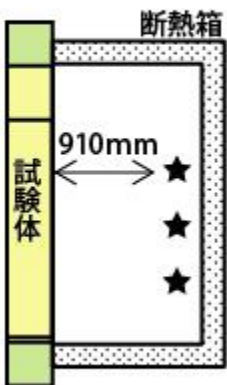
標準温度曲線

試験体の庫外側が加熱できるよう加熱炉に建て付け、標準温度曲線により加熱を行う。

耐火時間による規定時間加熱後、庫内の温度が低下をはじめるまで、加熱炉に建て付けたままで、自然冷却（放冷）する。

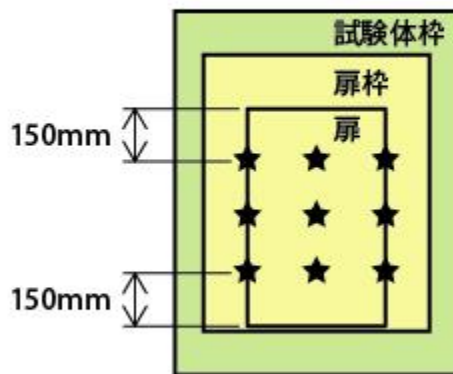
試験体表面から 910mm

扉上端、下端から 150mm



縦断面図

扉端部、中央部



庫内側 正面図

106 型 622 式両開き書庫室扉

昔ながらの煙返しを採用して耐火に特化した書庫室扉

106 型 622 式両開き書庫室扉特徴

■製品の特長

当製品は塗装・寸法・装飾・デザイン・オプションを自由に選んでお客様の要望に応じた特仕様にする事を前提にした両開きの書庫室扉です。

昔ながらの深い煙返しの扉をお求めの方にお勧めです。

両開きの扉は、幅を広く使いたい場合や標準の幅で採用した場合は開くスペースを減らす利点があります。

■煙返し

現在では作業の作業効率の面からほとんど採用される事のない曲線の煙返しです。煙返しに深さを確保できるメリットがあります。

激しい炎は扉の隙間から庫内に吹き込もうとします。

吹き込む炎を一度当てて勢いをなくし庫内に火を入らない構造が煙返しです。

■基本仕様施錠装置

UL 規格(アメリカ保険業者安全試験所が策定する製品安全規格)の施錠装置を装備しております。

符号錠(暗証番号 2 桁が 3 種)×1 個

錠前×1 個

■再施錠装置

錠前を破壊された瞬間に機構部へ施錠が掛かる第二施錠です。

表側からは直接的に触れる事が出来ないので開放する事を難しくします。

■門

右扉前側：直径 25mm×4 本。

左扉上下側：直径 25mm×各 1 本で合計 2 本。

※仕様によって左右が入れ替わる場合があります。

■杳摺

段差のないフラットな杳摺を採用しております。

杳摺部には滑りにくい縞鋼板を使用しています。

■擬宝珠(ギボシ)

本来は装飾の役割しか果たしませんが有事の時の丁番の抜け止め機能を併せ持たして再採用しました。

■ 順位調整器の標準装備

正しい開閉順序で使用する為の装置です。

■ 塗装

ラッカー系塗料で7分艶までであればお客様のご要望に応じた塗料会社の塗装色とで仕上げさせていただきます。

■ 有効寸法と製作厚

構造的な許容範囲内でしたらお客様のご要望に応じた寸法で製作させていただきます。

■ 庫内側蓋

丁番での開閉を採用しています。

有事の際はいち早く開放を行う事を求められます。

庫内側の蓋に丁番での開閉を採用する事で修理の効率を高めました。

■ 使用例

書庫室扉、蔵扉、医療用麻薬保管庫

■ オプション

家紋の装飾・タイムロック・戸当たり・予備符号錠・符号錠の追加・電気錠

非常開放装置・基本以上の艶や基本種類以外の塗料

家紋の装飾…家紋の装飾を装備します。

タイムロック…設定した時間に解除する錠前です。

戸当たり…扉を開けた時に当てる部分です。

予備符号錠…符号錠の故障時に備え1つ多く符号錠を装備します。

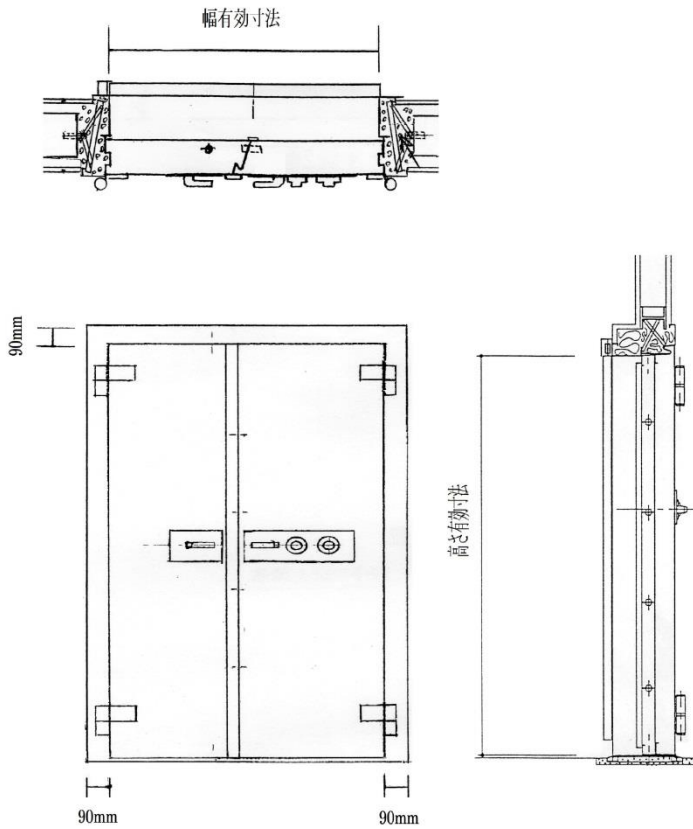
符号錠の追加…符号錠の数が増えると不正な開放に時間がかかります。

電気錠…扉をカードキーや指紋認証やテンキーによる電氣的な集中管理が出来ます。

非常開放装置…庫内へ閉じ込められ施錠されてしまった時に庫内側から扉を開放する装置です。

詳細は別資料がございますのでご請求下さい。

■製品イメージ図



106型 622式両開き書庫室扉

高さ有効寸法：1770mm～1950mm

幅有効寸法：900mm～1950mm

製作厚：185mm以上

扉厚：120mm

門本数：直径 25mm

右扉前側 4本

左扉上下側各 1本

基本表面仕上がり：塗料会社から発売されている規格の指定色内の

ラッカー系塗料 7分艶まで

標準施錠装置：UL規格品符号錠 1個、UL規格品錠前 1個

インタロック装置装備

再施錠装置装備

後打ちコンクリート別途